

令和4年度 県立山形西高等学校 学校評価書（自己評価・学校関係者評価）

1 スクール・ミッション

県内有数の歴史と伝統の中で培われてきた「嚶鳴精神」のもと、高い理想を持った仲間と切磋琢磨する生徒会活動や地域・大学等と連携した探究型学習など、一人ひとりの個性と主体性を大切にした教育活動を通して、他者への思いやりと社会に貢献する志を持ち、郷土愛に満ちあふれた、国内外で活躍できるグローバルな人材を育成します。

2 学校の教育目標

本校は「嚶鳴精神」を基本的な信条としながら、次の目標を掲げて教育にあたる。

1. 真理を愛し、正しく判断する知性を養う。 －知性を育てる－
2. 自律的に思考し、責任をもって行動する態度を身につける。 －徳性を育てる－
3. 明るく清純な資質と、創造力ゆたかな個性を伸ばす。 －個性を育てる－
4. 健康なからだと、やさしく思いやりのあるところを育てる。 －体と心を育てる－

3 本年度の重点目標

西高の志教育 思いやりと高い志を持ち、郷土愛にあふれた西高生を育てる

○恕の教育：あらゆる人の価値を尊重し、他者の立場で考えることができる心豊かな生徒

○志の教育：主体的に自分の生き方を追求し、持続可能な社会を創造する生徒

○郷土愛を育む教育：世界のどこにいても郷土山形に誇りを持つ生徒

4 前年度の成果と課題

(1) 成果

- 1 コロナ感染防止対策を入念に行って、各行事、PTA評議員会、雪かきボランティアを実施できた。
- 2 コロナ感染拡大による臨時休校・自宅待機期間であっても、オンライン授業を計画的に実施し授業時数を確保できた。
- 3 「デザイン思考」「観点別評価」「Google for Education」「授業改善」の4回の職員研修会を実施した。
- 4 校友会においてルールメイキングプロジェクトを立ち上げ、スラックス導入につなげる活動ができた。
- 5 西高リケジョ・プロジェクトとして実施した山形大理学部訪問及び東北大研究室オンライン交流、高大連携として実施した東北大出張講義は生徒にとってよい刺激となった。

(2) 課題

- 1 社会に求められる資質・能力を身に付けるための「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善
- 2 生徒自らが学習するような環境づくりと進学校としての組織的な進路指導体制の構築
- 3 生徒1人1台端末活用に対応するICT活用能力の向上と効果的な授業展開のための研修
- 4 コロナ下における生徒の社会体験、ボランティア活動及びPTA活動の在り方の検討

評価基準 A 達成できた B ほぼ達成できた C あまり達成できなかった D 達成できなかった

領域	重点目標	評価項目・評価指標	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見・要望
1 地域に開かれた、信頼される学校づくり	(1)学校の取り組みや生徒の活動を広く発信する。	<ul style="list-style-type: none"> HPを積極的に更新して、生徒の校内外の諸活動を広く地域に発信する。 PTA 活動や各種活動の出席率を70%以上にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 各課、各部のご協力のもとタイムリーな情報発信ができた。 全体での出席率は54%、早朝交通安全指導は90%だった。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続的に学校PRのための情報を発信したい。 PTA 総会をオンラインで配信したり早朝交通安全指導を見直したりする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 課題研究成果発表会等にぜひ積極的に参加させてほしい。 今年度締結された山形大学との連携協定を生かして、理学部や工学部への訪問を推進して行ってほしい。
	(2)高等教育機関や地域社会等と連携・協働した学びを展開する。	<ul style="list-style-type: none"> 東北芸術工科大学との連携協定を活用し探究的な学びを実施する。 西高理系プロジェクトを継続し、理型生徒の進路選択を支援する。 		<ul style="list-style-type: none"> 生徒向け、職員向けの研修会やワークショップの開催、探究テーマのオンライン相談会、発表会での助言等活用した。 山形大学理学部、東北大学理系学部と連携して実施し、生徒の評価も高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 各年次の要望等も踏まえ、引き続き協定を活用する。 次年度も継続実施を検討したい。山形大学工学部への訪問について日程の調整を早めに行う。 		
	(3)生徒・保護者等及び学校評議員等による適切な評価等を基に、学校の取り組みについて積極的に検証と改善を図り、新しい時代に対応した学校づくりに努める。	<ul style="list-style-type: none"> 新学習指導要領に基づいた育成したい生徒像を明確にし、学校全体で指導にあたる。 学校評議員会を年2回開催する。 		<ul style="list-style-type: none"> 学校全体で重点目標に向かうために、目標、評価の様式を分掌、年次で統一できた。 6月と2月に学校評議員会を開催し、意見交流できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価を次年度の計画に活かすサイクルを確立する必要がある。 学校評議員会は感染症対策を万全に講じた上で開催していく。 		
2 授業改善と確かな学力の育成に努め、本校教育の質的向上を図る	(1)本校教育の基本は質の高い授業の実践である。あらゆる機会を捉えて授業改善と教材の精選に努め、確かな学力を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> 年間を通じ、学習評価を念頭に、主体的・対話的な授業の実践に努める。 山形大学の協力を得て授業改善に向けた校内研修会を実施する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 3観点の評価に関しては、さらに情報を共有しながら進める。 講師を招き、授業参観 WEEK とリンクさせ職員研修会を実施した。授業改善に向け様々な情報を職員間で共有できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 評価方法に関しては、教科を超えて情報の共有を行い、授業改善とセットで考える。 次年度も授業参観 WEEK、職員研修会を実施したい。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 生徒のやる気や家庭学習については、新しいことにチャレンジしたり自分から課題を見つけたりするために時間を見つけることが必要なので、先生方の取組を評価したい。 55分から50分になっての5分は違いがあると思うので今後研究を進めてほしい。 ICT 環境が整備されてきて、今後どのように使っていくかがカギだと思う。中学校からタブレットPCを使ってきた生徒にどう積み上げるかがポイントのように思う。
	(2)教科会を通して本校の教科指導のあり方を実践的に研究する。	<ul style="list-style-type: none"> 授業におけるICT等の活用を進め、生徒にわかる授業の実践に努める。 実践を共有し全体で指導にあたる体制を目指す。 		<ul style="list-style-type: none"> プロジェクターの使用にとどまっている。 一人一台 PC を用いた授業での活動はまだ少く、体系的な指導には至っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 教科を超えて ICT の活用の情報を共有し、できる活動から ICT 化を進める。 より体系的・効率的な指導を研究する。 		
	(3)本や新聞に親しむことを通して、幅の広い学力教養と豊かな人格の形成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 年間一人10冊以上の読書を奨励する 社会問題に関心を持ち、学習と結びつける姿勢を育てる。 		<ul style="list-style-type: none"> どの年次も朝・休憩時間等に読書をしている生徒が見られる。貸出状況は1年次6.5冊、2年次1.5冊、3年次3.6冊だった。 授業、総合探究、小論文において活用されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年次の読書習慣の定着が期待される。2年次は3学期に読書の啓発活動を行う。 社会問題に目を向ける上で新聞の活用を引き続き呼びかける。 		
	(4)学習と行事・部活動等との速やかな切り替え指導は、学力向上の重要な柱である。そのために年次と教科担当者、部顧問との連携を図る。	<ul style="list-style-type: none"> 学習と部活動の両立を促し、生徒自ら時間管理を意識できるように促す。 部活動と学習の両立を図り、部活動に完全燃焼させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 西高ダイアリーは使用しているが、時間管理に課題が残る。 部活動でインターハイ、全国大会に駒を進め、引退後はそれぞれの目標に向けて勉強に励んでいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 時間管理の重要性と西高ダイアリーの活用について機会を捉えて説明する。 生徒それぞれの志望達成に向けてサポートしていく。 		

領域	重点目標	評価項目・評価指標	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見・要望
3 本校に対する社会的な期待と信頼に応え、伝統ある県内有数の進学校として 進路指導の充実を図る	(1)時代の変化を的確に捉え、一人一人の人生を豊かにする学力とともに持続可能な社会の創造に寄与する人材を育成する。	・最新のセミナーや研究会などを紹介し、1・2年次生の参加を促す。	B	・セミナー等の案内を紹介し参加を促すことができた。	・山大大学院の「学びのフォーラム」に進路決定者を参加させた。	B	・これだけ情報があふれ自由に手に入れられる時代ではあるが、他県と比べて必要な情報は県内全体も含め実は得られていないのではないかと感じているので、生徒にとって有用な情報を提供して欲しい。
	(2)進路講演会や教養講演会など人生について学ぶ機会を積極的に提供し、自分を知り、未来の社会と自らの生き方を考えるキャリア教育の授実を進める。	・生徒向けの進路講演会について 70%以上の高評価を得る。 ・教養講演会を通して、8割以上の生徒が内容に満足するよう設定する。		・適時の進路情報を得る講演会を実施し、高評価であった。 ・生徒の評価は、大変満足・満足が96%と非常に高かった。また欠席者・保護者にもオンライン配信を行った。	・講演会の振り返り等のフィードバックの即応性を大切にし、効果を高めたい。 ・教養講演会はPTA事業として実施する。		
	(3)年間計画に基づいた校内模試や外部模試等の意義と活用の指導を徹底するとともに、その結果について適切な分析と対策に努め、学力の向上を図る。	・模試に向けて、準備⇒自己採点⇒振り返りのサイクルを確立させ、中期目標シートに模試のCAPを記入させる。サイクルを確立できていない生徒への適切な助言を行う。		・模試の出題内容だけでなく、生徒たちの受験意識についても振り返らせることができた。 ・1年次では中期目標シートを利用してCAPを実行させることができた。	・生徒の振り返りを教員間(教科間も含む)で共有し、授業等に活かしていく。 ・もう少し教科と協力して計画的に準備を進める。		
	(4)先進校視察や授業力向上教育研究セミナー等に参加し、進路指導や生徒指導、授業力の一層の向上を図る。	・オンラインを含む視察やセミナーに参加し共有すべき情報を提供する。		・積極的にオンラインを含め研修に参加し、授業力の向上を図るとともに、情報の共有化も良好であった。	・ICTを活用したオンライン研修については活用を図っていく。		
	(5)地元大学への進学を促進するとともに、難関大学に向かうチャレンジ精神と発展的学力を育成する。	・医学部医学科や難関大にチャレンジできる生徒を全生徒の15%程度育成する。		・年次における難関大対策への意思統一が十分ではなかった。 ・県教委の事業や「嚶鳴合格プロジェクト」を利用して意識づけと学力向上を図ることができた。	・他年次や他校の実践に学び、具体的な対策を取る。 ・「嚶鳴合格プロジェクト」により、上位層を伸ばしチャレンジ精神を育てる。		

領域	重点目標	評価項目・評価指標	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見・要望
4 豊かな人間性と社会性、コミュニケーション力を育成する	(1)在学時に成年になることを踏まえ、保護者等と連携・協力し、挨拶や清掃、マナーや情報モラル等の生活指導の充実を図り、笑顔と知性が輝き、自律性豊かな西高生を育成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・状況を的確に判断し、TPOを踏まえて行動できる判断力と行動力を涵養する。 ・進路指導や学習指導に資する基本的な生活習慣を確立させる。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活態度は身につけていると思われるが、挨拶や清掃等、もっと元気に積極性をもって取り組めればなおよい。 ・生徒の下校時刻が30分繰り上がったものの、その時間を有効に活用できていないケースもまだ見受けられる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んで自分から元気よく挨拶できる生徒を育てていきたい。 ・進路・教務・生徒課が連携しながら、生徒が時間を有効に活用するために、指導方法や内容を検討する。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・除雪ボランティアについて、今年度は小雪のため今のところ実施はしていないが、今後もしよるしくお願いしたい。また、今年2年ぶりに開催した「あいらぶ末広 楽市楽茶」に、書道パフォーマンスの参加いただいた。今後も参加していただきたい。 ・中学生にとってオープンスクールが対面だったのはよかった。実行委員は自分の学校という思いが強くなったと思う。
	(2)校友会活動、学校行事、部活動、ボランティア活動等を通して、豊かな人間性と社会性、コミュニケーション力の育成に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・校友会活動を中心に、生徒の主体的・協働的な活動を支援する。 ・校外の団体と協力しながら、生徒たちが意欲的に地域のために貢献できる活動の場を増やしていく。 		<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で昨年に引き続き規模の縮小を余儀なくされたが、生徒たちは工夫を凝らしてそれぞれを成功に導いた。 ・被災地ボランティアは今年も実現できなかったが、雪かきボランティアは山形市社会福祉協議会と連携を取りながら実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・来年はもっと早めに計画立案し、もう少し余裕をもって取り組めるように活動を支援したい。 ・ボランティア活動に向けて今後関係各所と打ち合わせていく。 		
	(3)不登校や不適應について適切な対策を講じるとともに特別支援教育の充実を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の不登校生徒の状況を把握し、予防的対策に努める。 ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた指導を行う。 		<ul style="list-style-type: none"> ・多様な生徒に対して、専任・年次で連携し、また、SC や医療機関との連携を図りながら対応を実施した。 ・8月・11月は生徒向け講話、4月・7月は職員研修、6月・7月は保護者向け研講話を実施した。今年度は保護者、職員対象の研修に力を入れた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の心理検査の分析支援や、保健室利用状況についての情報提供を今後も継続するとともに、生徒への対応の仕方、生徒理解について学ぶ機会を作る。 ・研修は継続が大切であるため次年度以降も実施する。 		
	(4)「学校いじめ防止基本方針」に基づき、いじめの未然防止に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・いじめの根絶を図る。 ・SNSに関わるトラブルを回避できるスキルを涵養する 		<ul style="list-style-type: none"> ・いじめとまではいかないが、アンケートにはいくつか記載があったため、各年次を中心に対応した。 ・警察からの講話で SNS に関する内容を取り上げてもらい、生徒への意識の高揚を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年次集会や校友会だよりなどで、いじめの根絶を呼びかけるとともに、担任面談等をこまめに行うことで生徒の状況把握に務める。 		

領域	重点目標	評価項目・評価指標	自己評価	今年度の成果と課題	次年度への改善点	学校関係者評価	学校関係者評価委員の意見・要望
5 生徒・教職員の心身の健康と安全教育・防災教育を推進する	(1)「いのち」の教育を推進する。	・県の指針に則り、自分の「いのち」を守り、他人の「いのち」を尊重できる生徒を育てる。	B	・全体で話をする機会は取れなかったが、悩み相談窓口等を生徒に通知した。	・個人面談など生徒と話す機会を意識的に設け、生徒が安心して気持ちを話せる環境づくりを行う。	B	<ul style="list-style-type: none"> ・この3年間でICTが進んだりトイレが洋式化されたりと時代に合った活動がなされていると感じている。 ・「さくら連絡網」による連絡はスクロールできるので見やすい。細かな情報でも構わないので情報を送ってほしい。 ・同窓会の先輩で今活躍されている方々を知ることによって身近に感じ、進路は広がるように思う。
	(2)さまざまな災害に備えた防災教育の充実を図る。	・災害に備え、年2回避難訓練を実施する。		・春季はオンラインで実施、秋季はコロナ対策をしつつ、避難経路の確認とグラウンドへの避難ができた。 ・Jアラート発信時の訓練も実施できた。	・年度初めに避難経路を図示し確認する。 ・予測できない災害に対する対処の仕方について訓練を行っていく。		
	(3)交通安全の意識を高め、生徒・教職員ともに交通事故の絶無に努める。	・交通事故発生件数0を目指す。		・今年度も数件の自転車が絡む交通事故が起ってしまった。こちらの不注意というだけでなく、気をつけていながらの事故も多かった。	・交通安全講話や登校指導を通して、継続的に交通安全意識を涵養していく。		
	(4)不審者から生徒を守るために防犯教育と施設の整備充実を努める。警察や家庭と連携し、適切な情報の共有を行う。	・不審者対策を徹底し、もしもの場合も身の安全を第一に図れるようにする。		・例年何件か寄せられる不審者事案は、今年はゼロである。	・不登校生徒の情報共有をさらに図り、個々の状況に対応していく。また予防にも努める。		
	(5)学校における働き方改革を推進する。また、教育公務員として綱紀の保持、社会人・家庭人としてのライフ・ワーク・バランスのとれた生活に努める。	・部活動の休養日(平日1日、土日のうちどちらか1日)の設定と実施を行う。同僚と相談しやすい職場環境の構築を目指す。		・部活動の休養日の設定および実施はできていた。徐々に同僚と相談することができてきている。	・一斉退校日の呼びかけを継続する。仕事に限らず話しやすい職場環境をつくるために、教頭・課長・主任による日頃の声かけを意識していきたい。		
	(6)節電やごみ分別等環境問題について生徒の意識を一層高める。	・SDGs の理念に結び付けた活動に取り組む。		・ゴミの分別については良好であった。	・節電に関しては課題があった。		

学校関係者評価を踏まえた改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な社会づくりや多様性の理解、地球市民としての生き方を知る機会の提供するために生徒の探究活動支援や講演会開催 ・STEAM 教育等の教科横断型学習や文理融合型学習を推進するための校内体制及び進学校としての組織的な進路指導体制の構築 ・ICT 機器活用による生徒の主体的な学習への取組推進や新教育課程の着実な実施のための指導力向上のための研修 ・アフターコロナでの生徒の社会体験、ボランティア活動及びPTA活動の在り方の再構築
-----------------	---